

| 教育的価値 | 具 体 の 項 目 | 教育課程 教科(国語) |
|---------|---|----------------|
| 1 【いきる】 | ⑤【やり抜く強さ】 救援活動などに従事した人々の働きと苦勞を通して、どんな状況においてもやり抜く強さについて考える。 | 総 合 行 事 |

【題材】

「稲むらの火」を演じて考える。

国語「百年後のふるさとをまもる」を劇「稲むらの火」(学習発表会)に発展

【対象】

5年1組 33名、5年2組 36名 計 69名

【実践の概要】

1 国語「百年後のふるさとをまもる」

○主な学習活動

「稲むらの火」のモデルとなった浜口儀兵衛の伝記を読み、儀兵衛の考え方や生き方について話し合った。

他の伝記を読み、今の自分と関わらせながら、自分の生き方についての考えを持つようになった。

「百年後のふるさとをまもる」をキーワードに、復興と防災の考え方を学んだ。

2 劇「稲むらの火」

伝記を基に、儀兵衛を主人公とした脚本を書き起こし、北厨川小学校版「稲むらの火」として学習発表会で発表した。

○主な学習活動

脚本を読み込み、大震災と重ね合わせて考えながら、登場人物の心情を自分なりに想定した。

表現を工夫し、登場人物の心情になりきって演技し、劇を成功させることができた。



【まとめ】

儀兵衛の業績は、大震災からの復興のお手本になりうるもので、この学習活動は子どもたちにとって大変よい道しるべになった。

昨年度、来校した大沢小学校の4年生と交流し、再会を約束している5年生にとって、来年の大沢小学校訪問について、自分たちは何を目的に、どんなことを用意したらよいのか考えるこの上ない契機となった。

薄まりつつある大震災の記憶とは裏腹に、5年生の復興に対する意識は高くなっている。



いける社会をつくりたいです。

私はこの学習発表会で、セリフを言うとき、気持ちを込めて、大きな声で言いました。私は、前を向いて、上を向いている社会をつくるには、ほ金活動をしたり、ヘルメットや、テトラパックを集めたりして、東日本大しん災で被害をうけた人の手助けをしていきたいです。そうして、前を向いて、上を向いて

五年二組 名前 阿部 文香

『稲むらの火』を演じて考える



あきらめなさいで上を向いて前へすすむことかからうつつに、つなかると思ひます。

五年二組 名前 滝又 勇飛

『稲むらの火』を演じて考える